



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2012年3月受診者数：3261人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 2477人 (2202人)
2. 咳 : 1436人 (179人)
3. 鼻汁 : 1035人 (13人)
4. 嘔吐 : 597人 (250人)
5. 頭痛 : 421人 (24人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 994人
2. インフルエンザ : 990人
3. 感染性胃腸炎 : 496人
4. 気管支炎・肺炎 : 189人
5. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 121人



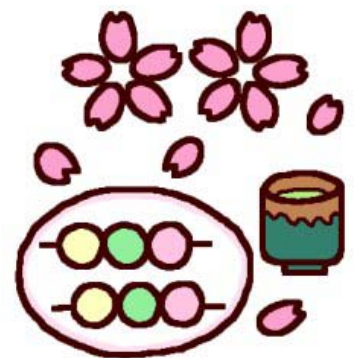
今月のワンポイント！

長い冬がようやく明け、桜の花がほころぶ季節となりました。

春は新学期がはじまり、こどもたちが新しく元気に登園、登校する季節です。新しく集団生活を始められる方がたくさんおられると思いますが、こどもが多数あつまる場では感染が流行します。新しい季節に、気持ちを新たに手洗い、うがいに励みましょう。

さて、神戸こども初期急病センターの3月の受診者数は3261人でした。もっとも多い受診の訴えは発熱で、そのなかでインフルエンザの患者さんが990人おられました。そのうちのほとんどがB型インフルエンザで、B型インフルエンザが流行していることがうかがえました。しかし、インフルエンザの定点観測の結果では、3月も下旬になると患者数が減少してきました。気候があたたかくなるにつれ、インフルエンザの流行の終息の兆しがみえてきています。

インフルエンザ以外では、咽頭炎や上気道炎（いわゆるかぜ症候群）や感染性胃腸炎の患者さんがおられます。引き続き感染予防を見直しましょう。



神戸大学小児科のホームページがリニューアル致しました。
是非、ご覧ください。 <http://www.med.kobe-u.ac.jp/pediat/>